

様式第6号（第20条関係）

令和4年 6月 29日
番 号

佐賀県知事 様

住 所 京都府京都市下京区五条高倉角塚町 21 番
jimukinoueda bldg. 403 号室
団 体 名 特定非営利活動法人テラ・ルネッサス
代表者職・氏名 理事長 小川 真吾
電話番号 075—741—8786

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和3年11月16日付け県協第1487号及び令和4年2月8日付け県協第2102号により寄附金交付決定通知のあった佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して下記のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 活用実績報告書（様式第6号 別紙1）
- 2 収支決算書（様式第6号 別紙2）

令和3年度寄附金活用実績報告書

事業名	アフリカ中東部地域における最脆弱層の COVID19 対策・生計支援及び佐賀県内国際意識向上事業
寄附受入額	15,559,700 円
事業内容 (いつ、どこで、誰が、何を、どのように実施したのかについて記載)	
<p>事業名称：アフリカ中東部地域における最脆弱層の COVID19 対策・生計支援活動 対象地域：ウガンダ共和国グル県/コンゴ民主共和国南キブ州・中央カサイ州 実施期間：2021年4月～2022年3月 対象者：難民/国内避難民/紛争被害を受けた女性/最貧困層住民</p> <p>活動内容_1 南スーダン難民自立PJフォローアップ支援活動 (ウガンダ) ウガンダ北部に避難している南スーダン難民や難民居住区周辺の貧困層住民を対象に、自らの知識と技術を使って自立を維持しようとする人々の生計支援を行う。各自のニーズに応じて、それぞれに必要なフォローアップ支援を行う。</p> <p>活動内容_2 新型コロナウイルス対策支援活動 (ウガンダ) ウガンダ北部の難民や最貧困層を対象に新型コロナウイルスの感染対策の啓発を行うとともにコロナ禍の影響で生活が困窮した人々への生活支援・生計支援を行う。</p> <p>活動内容_3 紛争被害女性の生計向上フォローアップ支援活動 (コンゴ民) 紛争や災害の影響を受けているコンゴ民 (南キブ州) の女性が、自らの知識と技術を使って自立を維持できるように生計支援を行う。各自のニーズに応じて、それぞれに必要なフォローアップ支援を行う。</p> <p>活動内容_4 新型コロナウイルス対策支援活動 (コンゴ民) コンゴ民で紛争や災害の影響を受けている南キブ州及び中央カサイ州において、国内避難民や脆弱な女性、最貧困層を対象に新型コロナウイルスの感染対策の啓発を行うとともにコロナ禍の影響で生活が困窮した人々への生活支援・生計支援を行う。</p> <p>活動内容_5 (実施場所：佐賀県内) 2021年度内に、活動内容1～4に関する途中経過及び成果について、弊会主催イベント(テラ・カフェ in 佐賀等)の活動報告会及び県内CSO向けのファンドレイジングセミナー等を実施する。</p> <p>活動内容_6 固定IPアドレス環境整備</p>	

事業実施の成果・効果（見込み）

※提出期限までに成果・効果を示すことが困難な場合は、成果・効果の見込みを記入してください。

（上記の事業内容によって、誰（何）に、どのような成果や効果が見込まれるか・期待されるかについて、数値化して御記載いただくと分かりやすいです。）

効果_1：コロナ下の社会経済的な影響を依然受けているが、受益者個人もしくはグループ単位で、材料調達、収支管理、顧客対応、貯蓄活動などを行っており、一部の受益者は、安定的なビジネス運営がなされるようになっている。

効果_2：今年度は、コロナの感染による重症化、死者数が徐々に軽減していった一方、一昨年以降の社会経済活動の制限により、多くの脆弱層の暮らしが危機的な状況に陥っており、脆弱な女性を対象にマスク作りなどの就業機会を提供し、対象者の生活支援を行うことができた。また、この活動により 8000 枚のマスクが制作され、それらを医療従事者やエッセンシャルワーカー、元子ども兵などに配布することで感染予防の活動に寄与することができた。

効果_3：コロナ禍で経済的な打撃を受けている女性たち（洋裁ビジネス従事者）に対し、マスクなどコロナ禍で必要とされる製品をつくる仕事を提供。それらの製品を、家畜飼育の受益者や子どもたちに供与することで、女性たちの収入維持とともに、他の人々の感染予防を同時に行うことができた。また、乳製品を生産する協同組合に対して、販売促進のためのアンテナショップ開業に向けての助言と初期費用の支援を行なった。それにより、チーズや牛乳の生産拠点に近い都市部にアンテナショップを開業し、販路を拡大することができている。

効果_4：対象地域において、新型コロナウイルス感染予防のための啓発活動として、「手洗い啓発」「マスクの使用・着用方法」「3密回避」の3種類のチラシ・ポスターの配布や掲示を実施。また、マスク作りの仕事を提供するなどして、コロナ禍で経済的に脆弱な状況に陥っている女性の生計支援を行なった。

ポスターやチラシの配布により、約 5000 名の人々に対する啓発活動を行うことができた。一方、コロナ感染による死者数が 2021 年 7 月以降減少し、政府による規制も緩和されてきたこともあり、マスク着用や 3 密回避などの行動変容には十分な成果が出ているとは言い難い。但し、手洗いの啓発に関しては、コロナ以外の感染症予防にも重要であることから、一定の行動変容には繋がっている。

効果_5

佐賀県民の国際的課題、国際社会への関心を喚起し、県民の国際理解を深めることができた。

・佐賀県内教育機関での講演活動を活発に行い（講演回数 16 回、参加者数総数 1,578 人）、特に次世代を担う小学生・中学生に対して、国際理解を深めることができた。

・弊会主催月次講演イベントの開催回数 4 回及び参加者数累計 27 名

効果_6

ふるさと納税業務の実施におけるセキュリティの向上を図ることができた。

収 支 決 算 書

事業名		アフリカ中東部地域における最脆弱層の COVID19 対策・生計支援及び佐賀県内国際意識向上事業			
区 分		決算額 (円)	内 訳		備 考
収 入	佐賀県ふるさと寄附金	15,559,700			第1回交付： 円
					第2回交付： 円
					第3回交付： 5,085,500円
					第4回交付： 10,474,200円
	受取寄附金	3,900,995			
	イベント参加費	11,000			
	収入計	19,471,695			
支 出	南スーダン 難民自立PJ フォローアップ支援活動費（ウガンダ）	3,708,182	印刷費	6,392	アフリカ中東部地域における最脆弱層の COVID19 対策・生計支援活動
			会議費	553	
			旅費交通費	794,536	
			通信費	134,865	
			消耗品費	45,077	
			修繕費	0	
			接待交際費	0	
			水道光熱費	2,037	
			諸会費	0	
			租税公課	0	
			スタッフ研修費	0	
	支援経費	2,724,722			
	新型コロナウイルス対策支援活動費（ウガンダ）	5,392,758	印刷費	34,136	同上
			会議費	11,713	
			旅費交通費	1,736,251	
			通信費	205,391	
			消耗品費	65,974	
			修繕費	0	
			接待交際費	3,893	
			水道光熱費	3,727	
諸会費			611		
租税公課	302				
スタッフ研修費	800				
支援経費	3,329,960				

紛争被害女性 の生計向上フォロー アップ支援 活動費（コ ンゴ民）	878,910	印刷費	644	同上
		会議費	1,603	
		旅費交通費	144,632	
		通信費	11,848	
		消耗品費	26,205	
		修繕費	835	
		接待交際費	0	
		水道光熱費	1,870	
		諸会費	0	
		租税公課	231	
		スタッフ研修費	0	
		支援経費	691,042	
		新型コロナ ウィルス対 策支援活動 費（コンゴ 民）	3,402,926	
会議費	11,221			
旅費交通費	1,012,176			
通信費	82,908			
消耗品費	183,464			
修繕費	5,842			
接待交際費	0			
水道光熱費	13,084			
諸会費	0			
租税公課	1,615			
スタッフ研修費	0			
支援経費	2,088,113			
返礼品等の 調達に係る 費用	2,749,856			
返礼品等の 送付に係る 費用	477,000			
広報に係る 費用	2,042,063			
事務に係る 費用	820,000			
支出計	19,471,695			

○支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費、使用料等に分けて記載してください。

経理上の区分名で記載して構いません。

○領収書等は事業終了後5年間保存してください。

(様式第6号 別紙第3)

「世界の紛争から平和を学ぶ書籍開発プロジェクト」
寄附金活用実績報告書

事業名	世界の紛争から平和を学ぶ書籍開発プロジェクト
寄附受入額	3,060,000円
事業内容 (いつ、どこで、誰が、何を、どのように実施したのかについて記載)	
活動場所：国内(主：佐賀 副：京都)	
活動期間：2019年4月～2022年3月	
実施者：弊会佐賀事務所スタッフ及び京都事務局スタッフ	
内容	
①書籍作成	
・弊会が取り組む社会課題である「子ども兵」の現状や、課題背景を紹介するとともに、その解決に向けた日本国内外での取り組み(事例・インタビューなど)を通じて、社会課題解決には年齢、性別、地域等の条件に関係なく、主体的に取り組めるものだと、社会参加を動機づける書籍を製作。(2021年6月末作成完了)	
○書籍概要	
・ページ数：160ページ	
・目次	
- はじめに	
- 1、ルポ「ウガンダを訪問して」	
- 2、子ども兵に対する世界的な取り組み	
- 3、NGOの取り組み	
- 4、わたしたちの一步(行動に移した事例集)	
- 5、いま、わたしにできること	
- 6、ウガンダの歴史・巻末資料	
②書籍配布及びグローバル人材育成事業(実施時期：2021年9月～)	
上述の書籍を、佐賀県内の県立・市立・私立中学校及び高等学校へ寄贈する。 また、東明館学園 東明館中学校・高等学校との本書籍を活用したグローバル人材育成を目的とする授業を実施(2021年7月)。	
事業実施の成果・効果(見込み)	

書籍配布後の成果(見込み)

- ・ 佐賀県内中学生、高校生の課題に対する自発的行動意識の向上
→ 弊会教育機関講演前生徒向けアンケート内の『世界の課題解決に向けてあなたにできることはあると思いますか?』での「強く思う」「思う」の回答率の9割越えを目標とする(通常74%, 弊会調べ)
- ・ 佐賀県内での弊会事業「めぐる*」参加校数、0校から10校への増加
→ プロジェクトにより、行動意識が変化することで、課題に対する実際行動の1例として弊会の事業を指標として活用。
- ・ 佐賀県内教育機関での講演を年間40回開催、聴者延べ4,000人
→ プロジェクトにより課題への関心度の高まりを、弊会への講演依頼をする教育機関数によって計測する。
- ・ 「子ども兵」をテーマとした授業を実施、または生徒での自主的課題研究を行った校数を全校数の20%

*めぐるプロジェクト…書き損じはがきや古本、古着などを集めて支援金に変える仕組み。身近にできるため、近年、生徒会の取り組みなど校内での協力も多い。

収 支 決 算 書

事業名		世界の紛争から平和を学ぶ書籍開発プロジェクト	
区 分		決算額 (円)	備 考
収 入	佐賀県ふるさと寄附金	3,060,000	GCFでの寄附額360万円×85%
	受取寄附金	275,110	
	収入計	3,335,110	
支 出	謝金	245,015	書籍の一部を外部ライターに依頼するための謝礼 *2019年度支出
	デザイン費	1,000,994	書籍のデザイン費用 *2021年度支出
	イラスト作成費	100,100	書籍内掲載のイラストの作成費 *2020年度支出
	郵送費	100,000	佐賀県内の中学校、高等学校への無償配布のための郵送費 *2022年度支出予定
	取材費	604,482	ウガンダへの取材費 弊会スタッフ2名分の渡航費及び滞在費 *2019年度支出
	人件費	1,040,000	本事業のために、弊会スタッフの労働力活用のため、人件費を計上する。 *2019年～2022年度度支出(予定含む)
	国内移動費	100,000	授業のための国内移動費及び宿泊費2人分 *2022年度支出予定
	音声反訳費	43,120	インタビュー音声の文字お越し費用 *2019年度支出
	校正費	101,399	書籍原稿の校正費用 *2021年度支出
	支出計	3,335,110	

○支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費、使用料等に分けて記載してください。
経理上の区分名で記載して構いません。

○領収書等は事業終了後5年間保存してください。